

国土基盤専門委員会での補足意見（清水慎一）

2006年2月18日

「博多港国際ターミナル」について

○ターミナルの概要

- ・福岡市の「海に開かれた交流拠点都市づくり」の一環として、それまでの港湾機能の中心だった港の整備から、港を港湾・荷役業者だけの場所ではなく、「人が集まる賑わいの場所」として博多埠頭の「ベイサイドプレイス」に続き、93年4月に中央埠頭に80億円をかけて建設。
- ・乗船手続きカウンター、出入国管理や税関の窓口、免税店、九州高速船（株）の本社、レストランが入る鉄筋4階建てのビル。当時、晴海、神戸に次ぐ全国3番目の規模。
- ・日韓交流400万人のうち対馬海峡を渡る人は100万人。うち9割が海上交通。
（ビートル36%、コピー25%、カメラ10%、関釜フェリー16%など）

○旅客の立場からの問題点

- ・他の公共交通機関との連携が不十分
 - 博多駅から西鉄バスダイヤ
 - 天神バスターミナルに発着する長距離バスとの連携なし
- ・周辺の景観
 - 「初めての日本、福岡」の印象は？
 - ウォーターフロントとしての楽しみや賑わい
- ・ターミナル設備
 - 出入国が同一フロア、CIQの窓口時間
 - 乗船場、ボーディングブリッジ、バリアフリー
 - 総合的な観光案内所、CD、郵便局
 - 観光バス駐車場の不足、一般駐車場は50台程度

論点

- 既存公共交通機関の連携
 - ・鉄道の駅、バスターミナル、港のターミナル、道の駅などの拠点整備のあり方
 - ・拠点をつなぐ公共交通機関の整備調整、乗り換えの利便
- 国際的な人流の拠点としてのターミナル等の整備のあり方
 - ・CIQ、案内所、標識、バリアフリー、郵便局などの基礎的なサービス
 - ・周囲の景観、デザイン、歩行者と車の分離
 - ・国際的な人流拠点と物流拠点との分離
- 公共インフラの縦割り管理のあり方

以上